

平成24年度いわて市町村行財政コンサルティング事前診断調書【Aタイプ・重点診断】		市町村名：八幡平市		平成25年度 フォローアップ
※各指標の県内順位は財政的に良好な方からの順位		H24.10 市町村課	H24.11 八幡平市	H26.3 八幡平市
	検討依頼事項	左に対する検討結果（方針・対策・課題・要望事項	平成25年度取組実績	
普通 会 計	総括的事項及び歳出関係	【現状と課題】  ①実質収支、実質単年度収支 ・「実質収支」は黒字(521,088千円) H22比は+5,985千円(+1.2%) ・「実質収支比率」は4.2%(県平均7.9%、県内19位) H22比は+0.1pt。  ・「実質単年度収支」は黒字(387,631千円) H22比は▲170,911千円(▲30.6%) ・「実質単年度収支比率」は3.1%(県平均7.2%、県内21位) H22比は▲1.3pt。  ②歳出規模の状況 ・「歳出決算倍率」(復旧復興除きの標財比)は156.1(県平均162.3)。 H22比は+15.5ptと規模が大きくなっている。  ③基金残高の状況 ・「基金残高(財調+減債+その他特目)」は9,098,639千円。 H22比は+1,566,746千円(+20.8%)。 ・「基金残高倍率」(標財比)は73.5%(県内平均46.9%、県内13位)となっている。 H22比は+14pt。  ④経常収支比率の状況 ・「経常収支比率」は86.7%(県平均86.5%、県内20位)。 H22比は+0.9ptとなっている。 ・性質別内訳の構成 扶助費(4.7%)、人件費(21.6%)、公債費(20.1%) (維持補修費(3.3%、県内31位)と物件費(15.1、県内29)が下位となっている)  ⑤実質公債費比率の状況 ・「実質公債費比率」は13.0%(県平均13.4%、県内15位) H22比は▲1.4ptと改善している。  ⑥プライマリーバランスと地方債残高の状況 ・「プライマリーバランス」(発行額/元金償還額)は赤字(109.1%)(県平均86.4%、県内27位)。 H22比は+34.6ptで、今回から赤字化。今後はH25まで赤字化の見込。  ・「地方債現在高倍率」(標財比)は140.3%(県平均189.2%、県内5位)。 H22比は+4.5pt。  ⑦将来の財政負担(地方債残高+債務負担行為支出予定額-基金残高)の状況 ・「将来財政負担」は12,426,053千円 H22比は▲939,302千円(▲7.0%)と改善。 ・「将来財政負担比率」(標財比)は100.4%(県平均132.1%、県内10位) H22比は▲5.4ptと改善  ⑧将来負担比率(健全化法)の状況 ・「将来負担比率」は29.4%(県平均76.2%、県内8位)と県内で上位。 H22比は▲12.2pt  ⑨公営事業会計等への繰出金等の状況 ・「繰出金等比率1」(事業会計繰出金+公営企業への基準外繰出金+三セク等補助金・委託料の標財比)は8.3%(県平均11.5、県内8位)と低い。 H22比は+2.0pt ・「繰出金等比率2(比率1から第三セクターへの委託料を除いたもの)」は8.2%(県平均10.4、県内10位)。 H22比は+2.1pt  【現状と課題 総括】  ①経常収支比率は昨年より悪化(+0.9pt)している。 ・維持補修費(3.3%)が県平均(1.5%)より高い(県内31位)。 ・物件費(15.1%)が県平均(12.0%)より高く(県内29位)、昨年より1.9pt悪化している。  ②今後、庁舎建設事業(～H26、29億円)などの大規模事業が予定されており、プライマリーバランスがH25まで赤字で推移する見込みであること。		
	【検討依頼事項】 ①経常収支比率のうち、維持補修費及び物件費の割合が高く、公共施設の維持管理・更新費用が将来的に財政負担となる懸念があることから、ファシリティマネジメントの具体的な取組内容について説明してください。  ②普通交付税の合併算定替による増加需要額(H24:15億円)がH28から段階的に減少しH32以降はゼロとなることから、中長期的な財政見通しの下、持続可能な財政運営を行うための対応について説明してください。	①合併に伴い多くの公共施設を抱えるに至り、類似施設の統廃合や今後の修繕方針について検討を始めることとしています。今年度は各施設の現状調査を行い、分析を行うこととしています。それを踏まえて、今後、公共施設修繕計画の策定に着手する予定としています。  ②普通交付税の一本算定については、かねてより課題と捉えているが、国の経済対策等により財政規模の縮減に至れない現状となっている。そんな中ではあるが、職員数の減による人件費削減を実施してきたが、今後は懸案事項である物件費、補助費の削減検討を行うこととしている。これまで増やしてきた基金を有効活用しながら、緩やかに予算規模の縮小に努めていくこととしています。	①平成25年度策定した第2次八幡平市行政改革大綱実施計画後期計画に公共施設修繕計画の策定について盛り込んだ。  ②人件費の削減については継続的に実施してきている。 その他の科目については、八幡平市行政改革大綱に基づき縮減を図ることとしている。特にも平成25年度においては、行政評価と予算編成を密接に関連させるため、事業別予算の検討を行い、平成26年度予算から採用することとしている。	

H24.10 市町村課		H24.11 八幡平市	H26.3 八幡平市
検討依頼事項		左に対する検討結果（方針・対策・課題・要望事項	平成25年度取組実績
歳入関係	<b>【現状と課題】</b> <b>①自主財源比率</b> 平成23年度の自主財源比率は、24.6％(H22:24.9％、▲0.3pt)で、県内20位(県平均28.2％)にある。 そのうち、歳入に占める市町村税の割合は、14.8％(H22:16.0、▲1.2pt)で、県内18位(県平均20.9％)にある。  <b>②徴収状況</b> 市税の収入未済額は、254百万円(H22:286百万円)であり、前年より、32百万円減少している。(県全体では、1,091百万円減少) 市税の調定額に対する収入未済額の割合は、7.9％(H22:8.8％、県内19位、県平均7.4％)で、昨年より0.9pt縮小している。 徴収率は、90.9％(H22:90.8％)と、県平均92.0％を下回っており県内24位である。中でも滞納繰越分の徴収率が15.3％と県平均21.7％を6.4pt下回っている。  <b>③徴収対策</b> 課長補佐以上の収納向上対策本部員による臨戸催告及び臨戸徴収の実施、債権(預金、給与、農業者戸別所得補償交付金等)の差押え、悪質滞納者への捜索及び動産・不動産の差押えを実施するなど、徴収率の向上に努めている。  <b>④超過課税</b> 実施していない。		
	<b>【検討依頼事項】</b> <b>①徴収対策</b> 徴収率については、現年度分にあつては県平均を上回っているものの、滞納繰越分において、県平均を下回っています。滞納繰越分における滞納原因及びその徴収対策について説明してください。 また、現年度分における徴収率向上に向けた徴収対策についても説明してください。 徴収率比較 現 98.2 (前年比較+0.4 県平均比較 0.0) 越 15.3 (前年比較△1.7 県平均比較△6.4) 計 90.9 (前年比較+0.1 県平均比較△1.1)  <b>②滞納処分の執行停止</b> 納税資力のない者等に対しては、滞納処分の執行停止をすることとなっていますが、執行停止の状況について説明してください。  <b>③超過課税の検討状況</b> 超過課税について、現在検討していることがあれば、その状況について説明してください。	①滞納の原因については、バブル崩壊後、国立公園八幡平や安比スキー場などリゾート地を有し、スキー客の大幅な減少や所得の低減、リーマンショック・東日本大震災等の経済不況に伴う離職や会社倒産及び経済の落ち込み等による生活困窮者の増加によるものと思われます。 徴収対策については、督促、催告はもちろんのこと納期限内納付を広報等で呼びかけているほか、税の口座振替の推進を図るべくチラシの配布や納税相談を推進しているところです。なお、毎年年末をめどに収納率向上対策強化月間を設けて、副市長を本部長とする収納向上対策本部員による臨戸催告を実施し収納率向上に努めているところです。  ②国税徴収法の例により処理を行い、平成23年度は114名・38法人に対し、38,427,624円の執行停止を実施しました。  ③超過課税については、未検討です。	①徴収対策 徴収対策については、滞納者への督促、催告のほか、広報等で納期内納付、口座振替の推進を図っています。また、納付困難な場合は納税相談を実施しています。 平成25年度は新たに、「八幡平市税等納付案内センター」を設置し、滞納者等へ納期限後、電話で納付案内催告、口座振替手続き案内等を実施し、徴収率向上に努めているところです。 さらに、収納向上月間として、12月には現年課税の国民健康保険税の訪問催告(徴収)を実施し、5,897,100円の滞納額が納付となりました。 ②滞納処分の執行停止 国税徴収法の例により処理を行い、平成25年度は57名、16法人に対し、146,968,078円の執行停止を実施しました。 ③超過課税については、未検討です。
保険等事業会計	<b>国保事業</b> <b>【現状と課題】</b> ・財源補てん的な他会計繰入金は58,927千円。 H22比は▲2,007千円と改善。 歳入差出差引額は163,583千円で、上記繰入金を控除した収支は104,656千円、H22比は+107,596千円と改善。  ・国保税の収入未済額 調定額に対する割合(収入未済/調定済額(現年＋滞納))24.0％(県平均28.0％、県内21位)。H22比は▲1.0pt。 ・国保税の徴収率(収入済額(現年＋滞納)/調定済額(現年＋滞納)73.8％(県平均69.1％、県内21位)。H22比は、▲0.2pt。  <b>【検討依頼事項】</b> ・特になし		
	<b>国保直診事業</b> <b>【現状及び課題】</b> ・普通会計からの繰入金は55,000千円。H22と同額。 ・上記を控除した収支は▲29,535千円。H22比+1,465千円と赤字は縮小している。  <b>【検討依頼事項】</b> ・特になし		
	<b>後期高齢者医療事業</b> <b>【現状及び課題】</b> ・他会計からの繰入金は88,937千円。H22比は+1,250千円。 ・上記を控除した収支は▲87,495千円。H22比+1,481千円と赤字は縮小している。  <b>【検討依頼事項】</b> ・特になし		
	<b>介護保険事業(保険事業会計)</b> 該当なし		
	<b>介護保険事業(介護サービス事業勘定)</b> 該当なし		
公営企業会計	<b>水道事業</b> <b>【現状と課題】</b> <b>〈上水道 決算・経営指標〉</b> ・収益的収支における、総収益は約4億9,167万円(H22比▲1.2％)、総費用は4億6,071万円↑(H22比▲2.6％)、純利益は約3,096万円(H22比25％増)。 収益的収支に係る一般会計からの繰入金 91,032千円(うち基準外35,093千円)(H22比 5％増) 資本的収支に係る一般会計からの繰入金 87,261千円(うち基準外26,251千円)(H22比 1.6％増) ・料金回収率と普及率 料金回収率 84.3％。(H22比▲1.7％)。県平均86.8％ 普及率 82.7％。(H22比±0)。県平均81.6％ 有収率 79.4％。(H22比▲1.2％)。県平均75.1％ ・施設の利用率 44.7％(H22比▲1.0％)。県平均61.9％ ・20m3当たり使用料月額3,260円。県平均 3,584.8円。 ・水道高料金対策実施要領(平成13年4月20日総財企第84号)に基づく水道高料金対策実施計画:上水道は計画策定対象外。  <b>【検討依頼事項】</b> ・61,344千円の基準外繰入金があることから、当該基準外繰入金を縮減するよう経営改善に努めてください。	・給水原価と供給単価のアンバランスを解消するための経営計画の中で適正な料金設定の検討、給水区域内にある専用水道加入者や自家水道利用者に対する市水道への加入促進、未収金の徴収強化、事務改善等を行い、徹底的な経営改善を実施することとしています。	・料金設定 合併後の懸案事項であった料金統一を実施した。平成25年度と26年度は、激変緩和のための経過措置を設け、平成27年度の統一となるため、経営状況を見極めながら統一後経営計画の中で適正な料金設定の検討を行う。 ・収入の増加対策 相談等があった専用水道加入者や自家水道利用者に対して、市水道への加入促進を図った。 ・水道料金の未納者対策 納期到来後の未納者に対しては、督促・催告・給水停止予告・給水停止執行を続けると共に、滞納整理強化月間を年2回設けて電話催告・戸別訪問・夜間徴収を行った。 ・支出の削減対策 更新事業を極力抑制すると共に、工事等については、公共性をふまえ採算性を見据えた工事計画を立てて実施した。維持管理費の抑制を図るため、施設監視システムの統合を行った。 ・その他 上記の通り、経営改善に努めたが、平成25年9月16日発生の台風18号豪雨による水道施設災害により、一般会計からの繰入金が19,916千円発生した。



H24.10 市町村課		H24.11 八幡平市	H26.3 八幡平市
検討依頼事項		左に対する検討結果（方針・対策・課題・要望事項	平成25年度取組実績
公共下水道事業	<b>【現状と課題】</b> ・基準外繰入金控除後H23年度決算の実質収支▲94,332千円。H22比7,589千円。 収益的収支▲34,301千円。資本的収支▲111,557千円。 一般会計からの繰入金については収益的収支79,423千円（うち基準外34,301千円：H22基準外42,430千円）、資本的収支83,786千円（うち基準外81,273千円：H22基準外83,801千円）となっており、合計で繰入金163,209千円（うち基準外115,574千円：H22基準外126,231千円）  ・水洗化率 84.5%。 類型平均60.0%と比較して24.5%高くなっており、県平均73.1%と比較しても11.4%高くなっている。 ・有収率 97.5% 類型平均92.4%と比較して5.1%高くなっており、県平均84.1%と比較しても13.4%高くなっている。 ・使用料回収率 27.5% 類型平均49.9%と比較して22.4%低くなっており、県平均46.2%と比較しても18.7%低くなっている。 ・使用料単価 153.4円。 類型平均159.2円と比較して5.7円低くなっており、県平均172.4円と比較しても19.0円低くなっている。 ・一般家庭用使用料（1か月に20㎡使用） 2,730円 類型平均3,076円と比較して346円低くなっており、県平均2,915円と比較しても185円低くなっている。		
	<b>【検討依頼事項】</b> ①水洗化率は類型平均及び県平均を上回っていますが、経営の効率化を図るためにも、水洗化率向上のための取組を検討してください。  ②使用料回収率が類型平均を大きく下回っていることから、使用料収入の確保と汚水処理費用の削減を図り、使用料回収率の向上に努めてください。  ③115,574千円の基準外繰入金があることから、当該基準外繰入金を縮減するよう経営改善に努めてください。	①未接続世帯に対する普及推進員の戸別訪問や排水設備改造資金融資あっせん及び利子補給制度、住宅リフォーム支援事業などの水洗化のための事業について説明会での説明等を行い接続についての啓発を積極的に行います。  ②水道、下水道の使用料の見直しをすることとしており、両方を同時に行うと影響が大きいことから、先に上水道の料金改定を行いその後下水道の料金改定を行うこととなっています。上水道の料金改定が決まったので今後下水道の料金改定を行うこととしています。また、接続数を増やさなければ使用料収入が増えないため接続の啓発について引き続き取組んでいきます。  ③接続を推進し、更なる使用料収入をあげることにより経営改善、ひいては基準外繰入の縮減に努めます。	①住宅リフォーム支援事業などの水洗化のための事業について活用が図られた。また、平成25年度供用開始拡大区域は小さかったが、指定工事店の営業努力及び消費税増税前の駆け込み需要で新築の水洗化が多く見受けられた。平成26年度は広範囲の供用開始を予定していることから、一層の水洗化接続の啓発について引き続き取組んでいきます。
特定環境保全公共下水道	<b>【現状と課題】</b> ・基準外繰入金控除後H23年度決算の実質収支▲19,107千円。H22比3,368千円。 収益的収支▲4,700千円。資本的収支19,473千円。 一般会計からの繰入金については収益的収支19,224千円（うち基準外4,700千円：H22基準外8,258千円）、資本的収支15,873千円（うち基準外15,873千円：H22基準外15,174千円）となっており、合計で繰入金35,097千円（うち基準外20,573千円：H22基準外23,432千円）  ・水洗化率 54.4%。 類型平均68.1%と比較して13.7%低くなっており、県平均56.1%と比較しても1.7%低くなっている。 ・有収率 94.3% 類型平均90.9%と比較して3.4%高くなっており、県平均94.5%と比較すると0.2%低くなっている。 ・使用料回収率 21.6% 類型平均46.6%と比較すると25.0%低くなっており、県平均37.5%と比較しても15.9%低くなっている。 ・使用料単価 152.9円。 類型平均163.2円と比較すると10.3円低くなっており、県平均173.9円と比較すると21.0円低くなっている。 ・一般家庭用使用料（1か月に20㎡使用） 2,730円 類型平均3,078円と比較すると348円低くなっており、県平均3,165円と比較しても435円低くなっている。  <b>【検討依頼事項】</b> ①水洗化率が類型平均及び県平均を下回っていることから、水洗化率向上のための対策を検討してください。  ②使用料回収率が類型平均及び県平均を下回っていることから、使用料収入の確保（料金改定等）と汚水処理費用の削減を図り、使用料回収率の向上に努めてください。  ③20,573千円の基準外繰入金があることから、当該基準外繰入金を縮減するよう経営改善に努めてください。	①未接続世帯に対する普及推進員の戸別訪問や排水設備改造資金融資あっせん及び利子補給制度、住宅リフォーム支援事業などの水洗化のための事業について説明会での説明等を行い接続についての啓発を積極的に行います。  ②水道、下水道の使用料の見直しをすることとしており、両方を同時に行うと影響が大きいことから、先に上水道の料金改定を行いその後下水道の料金改定を行うこととなっています。上水道の料金改定が決まったので今後下水道の料金改定を行うこととしています。また、接続数を増やさなければ使用料収入が増えないため接続の啓発について引き続き取組んでいきます。  ③接続を推進し、更なる使用料収入をあげることにより経営改善、ひいては基準外繰入の縮減に努めます。	①住宅リフォーム支援事業などの水洗化のための事業について活用が図られた。また、指定工事店の営業努力及び消費税増税前の駆け込み需要で新築の水洗化が多く見受けられた。平成26年度も一層の水洗化接続の啓発について引き続き取組んでいきます。
農業集落排水処理施設	<b>【現状と課題】</b> ・基準外繰入金控除後H23年度決算の実質収支▲202,231千円。H22比 ▲32,509千円。 収益的収支0千円。資本的収支▲177,105千円。 一般会計からの繰入金については収益的収支159,140千円（うち基準外0千円：H22基準外0千円）、資本的収支273,900千円（うち基準外212,651千円：H22基準外 183,150千円）となっており、合計で繰入金433,040千円（うち基準外212,651千円：H22基準外183,150千円）  ・水洗化率 60.6%。 類型平均80.6%と比較して20.0%低くなっており、県平均78.2%と比較しても17.6%低くなっている。 ・有収率 88.7% 類型平均92.0%と比較して3.3%低くなっており、県平均94.1%と比較しても5.4%低くなっている。 ・使用料回収率 17.5% 類型平均50.5%と比較して33.0%低くなっており、県平均31.0%と比較しても13.5%低くなっている。 ・使用料単価 151.3円。 類型平均148.0円と比較して3.3円高くなっており、県平均152.3円と比較すると1.0円低くなっている。 ・一般家庭用使用料（1か月に20㎡使用） 2,580円 類型平均3,127円と比較すると547円低くなっており、県平均2,884円と比較しても304円低くなっている。		



H24.10 市町村課		H24.11 八幡平市	H26.3 八幡平市
	検討依頼事項	左に対する検討結果（方針・対策・課題・要望事項	平成25年度取組実績
	<p>【検討依頼事項】</p> <p>①水洗化率が類型平均を下回っていることから、水洗化率向上のための対策を検討してください。</p> <p>②使用料回収率が類型平均及び県平均を大きく下回っていることから、使用料収入の確保(料金改定等)と汚水処理費用の削減を図り、使用料回収率の向上に努めてください。</p> <p>③212,651千円の基準外繰入金があることから、当該基準外繰入金を縮減するよう経営改善に努めてください。</p>	<p>①未接続世帯に対する普及推進員の戸別訪問や排水設備改造資金融資あっせん及び利子補給制度、住宅リフォーム支援事業などの水洗化のための事業について説明会での説明等を行い接続についての啓発を積極的に行います。</p> <p>②水道、下水道の使用料の見直しをすることとしており、両方を同時に行うと影響が大きいことから、先に上水道の料金改定を行いその後下水道の料金改定を行うこととなっています。上水道の料金改定が決まったので今後下水道の料金改定を行うこととしています。また、接続数を増やさなければ使用料収入が増えないため接続の啓発について引き続き取組んでいきます。</p> <p>③接続を推進し、更なる使用料収入をあげることにより経営改善、ひいては基準外繰入の縮減に努めます。</p>	<p>①未接続世帯に対する普及推進員の戸別訪問による水洗化だよりの配布や住宅リフォーム支援事業、小規模農業集落排水推進事業などの水洗化のための事業について活用が図られた。また指定工事店の営業努力及び消費税増税前の駆け込み需要で新築の水洗化が多く見受けられた。平成26年度は一層の水洗化接続の啓発について引き続き取組んでいきます。</p> <p>②使用料の改正については平成26年度以降に検討見直しの予定としております。</p>
特定地域生活排水処理施設	<p>【現状と課題】</p> <p>・基準外繰入金控除後H23年度決算の実質収支2,120千円。H22比 +2,295千円。 収益的収支821千円。資本的収支▲418千円。 一般会計からの繰入金については収益的収支0千円(うち基準外0千円：H22基準外0千円)、資本的収支1,774千円(うち基準外1,774千円：H22基準外1,498千円)となっており、合計で繰入金1,774千円(うち基準外1,774千円：H22基準外1,498千円)</p> <p>・水洗化率 99.4%。 類型平均81.0%と比較して18.4%高くなっており、県平均93.7%と比較しても5.7%高くなっている。</p> <p>・有収率 100.0% 類型平均100.0%、県平均100.0%と同値である。</p> <p>・使用料回収率 92.5% 類型平均68.3%と比較して24.2%高くなっており、県平均74.3%と比較しても18.2%高くなっている。</p> <p>・使用料単価 194.1円。 類型平均152.4円と比較して41.7円高くなっており、県平均178.2円と比較しても15.9円高くなっている。</p> <p>・一般家庭使用用料(1か月に20㎡使用) 3,780円 類型平均3,270円と比較して510円高くなっており、県平均3,545円と比較しても235円高くなっている。</p> <p>【検討依頼事項】</p> <p>・基準外繰入金(1,774千円)の内容について説明してください。</p>	<p>・浄化槽整備に係る整備費と地方債の償還財源としているものです。</p>	<p>・浄化槽整備に係る整備費と地方債の償還財源としているものです。</p>
病院事業(法適用)	<p>【現状と課題】 国保西根病院</p> <p>①決算状況</p> <p>(1) 病床数60床(一般病床:60床)</p> <p>(2) H23年度経常収支比率:100.8%(H22:103.0%)</p> <p>(3) H23年度医業収支比率:86.5%(H22:91.8%)</p> <p>(4) H23年度病床利用率:70.1%(一般病床:70.1%) H22年度 〃 :73.5%(一般病床:73.5%) H21年度 〃 :68.0%(一般病床:68.0%)</p> <p>(5) 資金不足比率(財政健全化法):0%</p> <p>(6) H23年度不良債務額:0千円(平成22:0千円)</p> <p>(7) 公立病院改革プラン策定:平成21年3月策定済み</p> <p>② H23年度決算の経常損益は5,640千円(H22:20,591千円)で前年度より14,951千円減少している。 経常収支比率は、100.8%(H22:103.0%で2.2%の減少)であるが、全国黒字病院(50～99床)のH22年度決算における平均経常収支比率は103.2%であり、今後更なる経常収支の黒字化を達成するよう経営努力が求められる。</p> <p>③ 収益的及び資本的収支に係る一般会計からの繰入金は、収益的収支147,989千円(うち基準外20,101千円)、資本的収支14,794千円(基準外0)(H22:収益的収支124,677千円、資本的収支26,444千円(共に基準外0))である。</p> <p>④ H23年度決算における病床利用率は、70.1%(H22:73.5%)であり、前年度より3.4%減少している。</p> <p>【検討依頼事項】</p> <p>①経常損益と病床利用率が前年度より減少した理由及び改善策について説明してください。</p> <p>②「医師確保」に向けた取組(新たな医師の招聘のための取組や、現在勤務している医師を辞めさせないための取組など)について説明してください。</p> <p>③20,101千円の基準外繰入金があることから、当該基準外繰入金を縮減するよう経営改善に努めてください。</p>	<p>①平成23年度半ばに長年勤務した内科医師の退職があり、約1ヶ月後に新たな内科医を迎えたものの、内科の入院が減少したことから、病院事業収益の半分以上を占める入院収益が大きく落ち込んだ。入院収益増加のためには、医師確保が重要と考えています。</p> <p>②新たに内科医1名が着任して、現在内科は3名体制となっており、病床利用率は上向きの傾向となっています。また、当市の奨学金制度を利用した医師が、来年度からの履行を希望していて、今までの医師確保対策が実を結んできている状況です。</p> <p>③西根病院は、地域医療の要であることを認識し、救急指定病院として24時間体制で患者を受け入れるとともに、県立中央病院、岩手医科大学附属病院等との連携を強化して患者の利便を図っていくこととしています。そんな中、経営健全化計画では、他会計繰入金の見込みは総務省自治財政局長通知に示された繰入基準の範囲内とし、医療サービスの向上による入院及び外来患者の増を見込み計画を策定しました。具体的施策として、①医師以外の各種手当の見直しを図っていくこととしており、また、②医事、給食、清掃業務等のアウトソーシング化や委託職員化を進めるという項目がありますが、①については、今後検討を重ねていくこととしております。②については、医事、給食、清掃の部門は既に実施済みであり、これ以外の業務で可能なものを洗出していくこととしております。</p>	<p>① 平成25年度には、内科医師1名が新たに着任し、内科医師は4名体制となったものの、9月末で1名が退職した事などから、入院収益の落ち込みが、なかなか回復できないでいる。今後においても、医師確保が重要であると考えています。</p> <p>② 当市奨学金制度を利用した医師のうち、現在3名が勤務し、来年度には国保連の奨学金制度を利用した小児科医師が着任することになっております。また、当市奨学金制度を利用した残る1名の医師も、来年度からの履行を希望していて、今までの医師確保対策が実を結んできている状況です。</p> <p>③ 収益の安定的な確保に向けた施策として、平成26年1月から試行的に夜間診療を週1回行っており、そのニーズに注視しながら、新たな患者数の増加につなげていき、経常収支の黒字化に向け、更なる経営改善に努めます。</p>
第三セクター等	<p>【現状と課題】</p> <p>・H24.3.31現在で、25%以上出資の第三セクターは、2法人(H22年度は2法人)。</p> <p>・運営費補助金を交付している法人は、0法人(H22年度は0法人)。</p> <p>・経常損失を計上している法人は、1法人(H22年度は2法人)。</p> <p>・債務超過の状態にある法人は、0法人(H22年度は0法人)。</p> <p>【検討依頼事項】</p> <p>出資法人の経営の定期的な点検評価体制を整備する必要はないか検討してください。</p>	<p>平成22年度に出資法人の経営改善策の検討策を講じる第三セクター等経営検討委員会を設置し、先般、報告書を取りまとめたところです。この委員会を今後も必要に応じて設置していくこととしております。</p>	<p>平成23年8月に策定された「八幡平市第三セクター等経営検討委員会報告書」に基づき、各種経営改善策のアドバイスを行っている。</p>
地熱染色研究所	<p>【現状と課題】</p> <p>・当該法人は、地熱蒸気染色製品の製造・販売を行う法人である。</p> <p>・H23年度決算の経常損失は、△3,249千円であり、H22年度は、△3,218千円であったことから、31千円損失額が増加している。</p> <p>・運営費補助金、損失補償債務残高、長期借入金等はない。</p> <p>【検討依頼事項】</p> <p>・今後の経常損益の見通しについて説明してください。</p>	<p>・当市では、直接的な経営参画はしていないため、地熱染色研究所から今後の経営の見通しについて聞き取りをしたところ、現状では、固定顧客向けの製造・販売を維持している状況であり、今後は、新規顧客の開拓を行うなど戦略を練らなければならないと考えているとのこと。</p>	<p>新規顧客開拓のため、県外都市部での物産展に積極的に参加している。</p>

H24.10 市町村課		H24.11 八幡平市		H26.3 八幡平市
検討依頼事項		左に対する検討結果（方針・対策・課題・要望事項	平成25年度取組実績	
その他	<div>【現状と課題】</div> <div>・公会計の整備(作成・公表)状況</div> <div>① 普通会計・公営事業会計別の財務書類を作成している。(連結は未着手)</div> <div>② 市有資産は把握済であるが、具体的な施策は策定作業中。</div> <div>・以前提出のあったH21決算の財務書類について他団体比較シートを作成しましたので今後の財政運営の参考としてください。</div>			